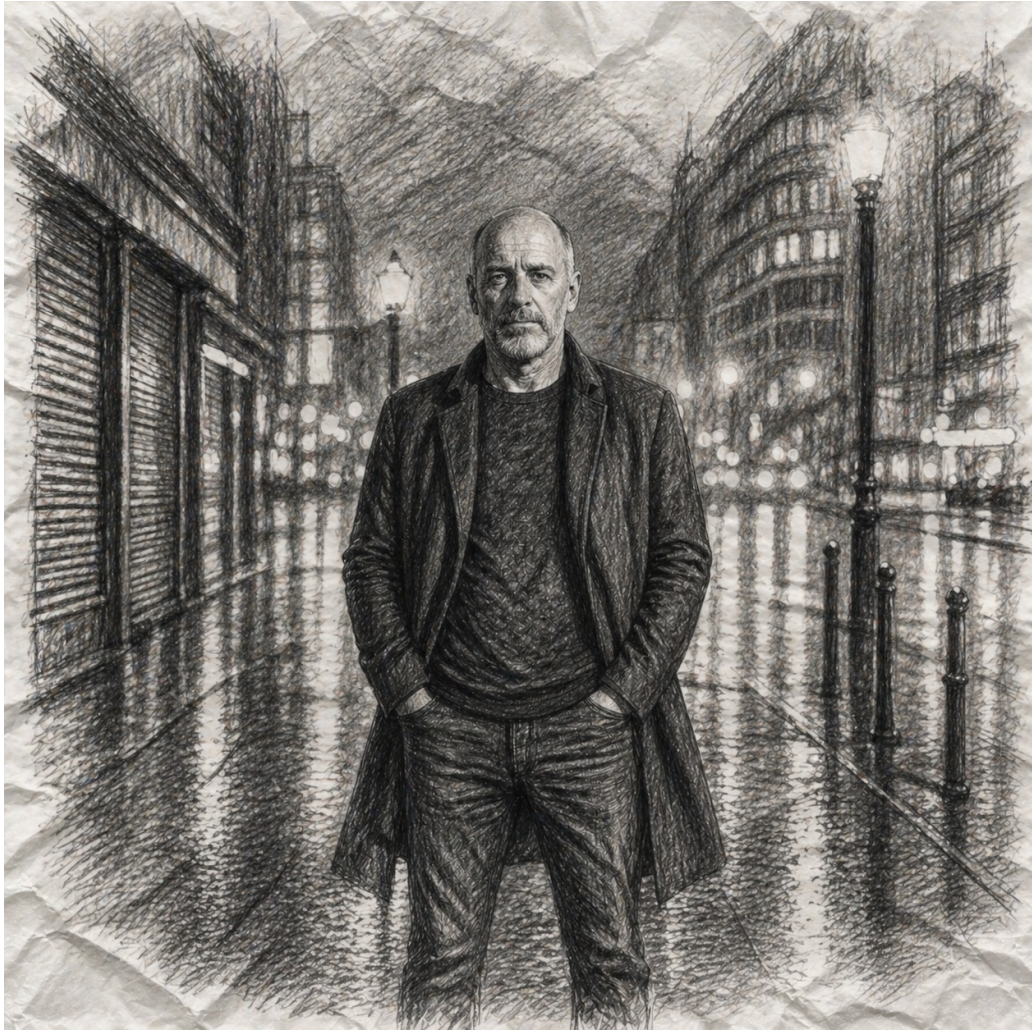




FRED

プレスキット

音楽・ビジュアル・文学を横断するインディペンデント・プロジェクト

FREDはコンセプトから生まれたのではない。長く続いてきた流れの中から生まれた。

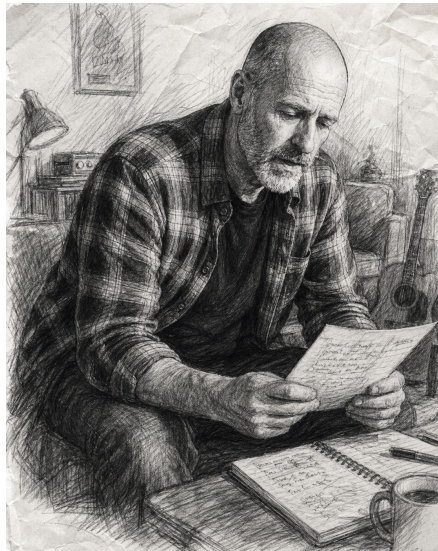
プロジェクト紹介

FREDは、長年文章を書き続けてきた作家Fredが歌う声へと踏み出すことで始まった、音楽・ビジュアル・文学を横断するインディペンデント・プロジェクトです。Fredの周囲には、フランス、韓国、日本の感性が集まるFREDのアトリエがあり、アートディレクション、ボーカル、サウンド、ステージ、流通、各言語へのアダプテーションをともに支えています。

このプロジェクトは断絶ではなく、連続の中から生まれました。何十年にもわたって書きためてきた文章、断片、人物、記憶、場所、そして人間へのまなざしに、Fredは別の形を与えたいと考えました。声、音楽、イメージ、サイクル、そして伝えていくための新しい空間です。

FREDは、後から貼り付けたコンセプトやカタログ戦略から始まったものではありません。ページ上の言葉だけでは足りなくなった瞬間から始まりました。言葉は別の仕方で呼吸する必要があった。歌われ、身体を持ち、イメージになり、共有され、その先へ続いていくために。

FREDはコンセプトから生まれたのではない。長く続いてきた流れの中から生まれた。



出発点は書くこと。文章、断片、声、記憶が動き続ける。

歌の星座

FREDは、リリースを順番に並べるだけのプロジェクトでも、先に決めたアルバムへ曲を当てはめるプロジェクトでもありません。むしろ、ひとつの星座のように形を変えながら広がっていきます。

歌の星座

現在Fredの手元には、大きな創作の蓄積があります。執筆、熟成、アレンジ、完成などさまざまな段階にある100曲を超える楽曲や楽曲企画、そして長年にわたって積み重ねてきた何千ページもの文章です。古いテキスト、断片、詩、場面、人物、イメージ、強い言葉、記憶は、ときにもう一度取り出され、動かされ、削られ、変形しながら、音楽としての形を待っています。

しかし、その蓄積は過去だけのものではありません。今も毎日増え続けています。出会い、すれ違った顔、耳に入った一言、街で目にした小さなディテール、イメージ、匂い、光、壁のひび、あるいは沈黙でさえ、曲の出発点になり得ます。

FREDは、古い記憶の中で作業しながら、つねに現在を通過しています。すでにほぼ完成している曲もあれば、文章やイメージ、日常の断片の中で眠りながら、自分の声、色、アルバム、そして時を待っている曲もあります。



ルーツ、庶民の場所、労働の記憶、内なる風景から広がる想像力。

この深さが、いくつもの方向が同時に生まれる理由です。すべての曲が同じ場所から生まれるわけではありません。都市の夜を求める曲もあれば、社会、子ども時代、家族の記憶、韓国、日本、庶民的なルーツ、親密さ、デジタルな欲望、優しさ、怒りへ向かう曲もあります。

FREDでは、アルバムが必ずしも出発点ではありません。制作を続ける中で、複数の曲が互いに呼応し始めたときにアルバムが姿を現すことがあります。一曲が次の一曲を呼び、一枚のイメージがサイクルを目覚めさせ、ひとつのテーマが別の形で戻ってくる。そうして少しずつ、ひとつの領域が立ち上がります。

FREDでは、曲がアルバムを選ぶのと同じくらい、アルバムも曲を受け入れていく。

旅として設計されるアルバム

FREDは、選び抜いたシングル、EP、アルバム、MIROIRSの各ボリュームなど、準備されたリリースを重ねながら進みます。しかしアルバムを、個別に発表した曲の単なる寄せ集めとして作ることはありません。

アルバムの輪郭が見え始めると、物語の弧を考えます。進行、緊張、呼吸、転換、入口と出口、ときには光やある種の解放へ向かう動き。各曲は、ひとつの旅の段階のように明確な役割を持つようになります。

一曲がアルバムに先立って発表され、独立した入口として生きることもあります。その曲自身の世界、ビジュアル、キャンペーンを持ちながら。アルバム全体が発表される時、その曲の位置は全体構造の中でもう一度考え直されます。

アルバムは、単独のリリースが断片としてしか見せなかったものを浮かび上がらせます。全体の道筋、曲同士の響き合い、対比、移行、そしてそれらを結ぶ内側の物語です。

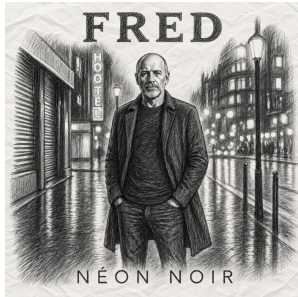
曲がアルバムを選び、そのあとアルバムが曲たちの旅を組み立てる。



ページの言葉が声へ、声がさらにビジュアルの世界へ移っていく。

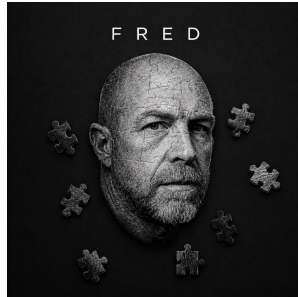
構築されていく複数の世界

現在、FREDの地図には8つの世界があります。それぞれは閉じた箱ではありません。固有の色を育てながら、曲、イメージ、テーマが別の領域へ渡り、互いに応答していきます。



ネオン・ノワール

夜、電気の光、孤独、緊張、都市の反射。



FRED

アイデンティティ、記憶、亀裂、家族のつながり、内面の再構築。



CAMLAND

画面、存在、距離、欲望、そしてイメージの向こうに残る人間。



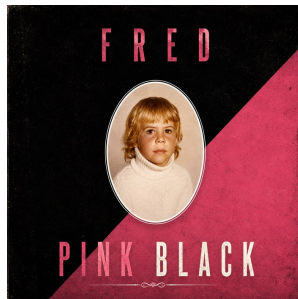
石畳

粗い質感、アイロニー、壁、街路、世界を正面から見る視線。



絹の夜

欲望、誘惑、関係の記憶、揺らぎの中にある優雅さ。



PINK BLACK

子ども時代、街、記憶、交差した道、失われた小さな王国。



GYEOL — 결

韓国の「結」、緊張、美しさ、そしてそこに生きる人々。



AYA — 綾

日本の糸、模様、ニュアンス、そして表面の下にあるもの。

最初の7つの世界はすでに公式サイトで開かれています。AYA — 綾は予告された地平として残り、作品の素材が十分に育ったときに姿を見せます。その先にも新しいプロジェクトが生まれる可能性があります。FREDの地図は固定されたものではなく、生きています。

書くこと、声、イメージ

FREDの前には、まず書くことがありました。Fredは10代の頃から書き続けています。初期の文章にも、今のプロジェクトを貫くものがすでにありました。孤独、記憶、社会への怒り、やさしさ、見えにくい人々、人が生きた場所、文化、人間の尊厳、そして消されることへの抵抗です。

FREDでは、その書かれた記憶を懐古的な遺物にはしません。もう一度、動かします。言葉はページを離れ、声、音楽、イメージ、公共の場へ向かいます。音楽は言葉に身体を与え、イメージは空気を広げ、ジャケットは入口をつくります。公式サイト、記事、制作の裏側、アーカイブは、作品が生まれていく過程そのものを見せます。

中心にあるビジュアルの言語は「痕跡」です。スケッチ、黒鉛、質感、紙、不完全さ、シルエット、顔、人の気配が残る風景。それぞれのユニバースはこの文法を独自の色へ動かしますが、言葉と人間へのつながりは失いません。

FREDは、互いにつながるひとつの作品群としても考えられています。公式サイトは長い記憶を保ち、SNSは断片を通してアトリエを開きます。将来のアートブックは、曲を聴き、言葉を読み、音楽の時間に合わせて世界がページごとに展開していく「旅のオブジェ」として構想されています。

幅広い音楽性を意識的に選ぶ

FREDはひとつのジャンルで定義されません。曲やユニバースによって、フレンチ・シャンソン、ロック、ニューウェーブ、トリップホップ、アンビエント・エレクトロニック、ブルース、フォーク、ソウル、都市的・有機的・映画的な質感まで行き来します。

この多様さは散漫さではありません。すべての言葉が同じ音の肌を求めるわけではないからです。FREDの一貫性は、ひとつのジャンルではなく、視線、言葉、声、イメージ、そして人間への注意から生まれます。

人を中心にした国際的なアトリエ

Fredを中心に、FREDのアトリエでは日々、フランス、韓国、日本の感覚が交わります。アートディレクション、声、サウンド、ステージ、流通、文化的な視点が一緒に動きます。多くの作業は遠隔で進みますが、チーム全体は2か月に一度、1週間集まり、フランス→日本→韓国の順で開催地を回します。

翻訳ではなく、アダプテーション

FREDの国際的な仕事は、フランス語の歌を機械的に置き換えることではありません。英語、韓国語、日本語の各バージョンは「姉妹作品」としてつくられます。同じ出発点を持ちながら、それぞれの言語と文化の中で自然に生きなければなりません。

フランス語版が渡すのは核です。全体の意味、感情、曲の役割、倫理的あるいは物語的な軸、深いエネルギー、作品のアイデンティティ。その核は見失わず、そこへたどり着く道は変わってもよいと考えます。

- 直訳が不自然だったり、考えを弱くしたりするなら、タイトル自体を変えることがあります。
- 同じ効果を生むために、イメージ、比喩、文化的な参照を移し替えたり、つくり直したりします。
- 対象の文化では別の道のほうが自然なら、状況、細部、視点を組み替えることがあります。
- 語調、慣用表現、相手への呼びかけは、教科書的ではなく、その言語で本当に自然に聞こえるものを選びます。
- 音節の流れ、アクセント、呼吸、歌いやすさは、意味への忠実さと同じくらい重要です。
- 自然さを壊してまで韻を強制しません。必要に応じてフランス語への確認訳で変化した部分を確認しますが、その確認訳が歌そのものになるわけではありません。

人間的な核は同じ。言語と文化への道筋はそれぞれ違う。

姉妹作品

つまり、目指しているのは各地域向けのコピーをつくることではありません。その言語で最もよい言い回し、最もよいイメージ、最もよい感情の距離、そしてその文化で本当に響く参照を探し、「輸入された文章」ではなく、生きた作品として受け取られる歌をつくります。

フランス語は出発点ですが、英語、韓国語、日本語は付録ではありません。それぞれのバージョンが同じテーマの別の輪郭を見せ、光をずらし、感情を凝縮し、新しい読み方を開くことがあります。

MIROIRS：変化の過程を見せる

MIROIRSの目的は、ひとつの「原曲」と三つの二次的な翻訳を並べることではありません。同じ作品ファミリーが四つの形で身体を持つところを見せることです。それぞれに、その言語の自然さ、音楽性、同じ感情の核を生きる方法があります。

この作業には、国際的なアトリエの耳、言語、文化的な感覚が関わります。時間も、試行も、フィードバックも必要です。国によって異なる選択が必要になることもあります。アダプテーションは変換作業ではなく、創作の一段階です。これはFREDの中心的な目標のひとつでもあります。同じ人間的な素材を平板にせず文化のあいだを移動させ、別の言語によって変化することを受け入れ、その変化によって作品をさらに生かしていくことです。

FREDが見つめるもの

FREDは、人の視線の高さで歌います。ささやかな暮らし、壊れやすい痕跡、いつもは見落とされる人々、消えずに残る記憶、そしてそこを通った人の何かを抱えている場所に目を向けます。

- 消去されることに抗う人間の尊厳。
- 見えにくい人々、孤独な人々、年輩の人々、生き延びた人々。
- 家族の記憶、庶民の記憶、文化の記憶。
- 街、通り、部屋、カフェ、港、そして内側の風景。
- 抵抗の形としてのやさしさと、具体的で人間的な社会への怒り。
- 生きた文化、言語、継承、孤独、そして最後に残るしぶとい光。

これらのテーマは美学上の檻ではありません。ひとつの土台であり、それぞれのユニバースが別の方向へ動かし、問い直し、違う光で照らすことができます。

動き続けるプロジェクト

FREDはローリング・カレンダーで進みます。通常は月3回の商業リリースを基本とし、プロジェクトと全体のワークフローが実際に支えられる場合にだけ、4回目を例外的に加えることがあります。アルバムとEPが軸となり、MIROIRSは可能な節目ですが義務ではなく、シングルは選択的です。

空いている枠を埋めるためにリリースはしません。作品が準備でき、全体の道の中で本当の役割を持ち、きちんと準備し、文脈を与え、そのユニバースにつなげられる時にリリースします。そのため創作には、新しい曲、新しいサイクル、新しい領域のための余白が残ります。

目標は単に作品数を増やすことではありません。曲、アルバム、イメージ、文章、アダプテーション、記事、そして将来の編集物が互いに応答する、読み取ることのできる、人間的で開かれた作品群を時間の中で築いていくことです。

Fredについて

Fredは10代の頃から書き続けてきました。FREDの前にも、文章、作品集、文学的な企画、断片、人物、場所、怒り、やさしさ、そして人の暮らしに向けられた絶えない関心がありました。

FREDでは、その素材が新しい形を得ます。プロジェクトの一貫性はひとつのジャンルからではなく、言葉、声、イメージ、共同作業、そして人間への視線の結びつきから生まれます。

リンク／お問い合わせ

公式サイト：fred-music.com

プレス窓口：presse@fred-music.com

FREDを聴く：Spotify、Apple Music、Amazon Music、YouTube、その他リリース時に利用可能な各種プラットフォーム。

公式SNS：Instagram、Facebook、YouTube。各リンクは公式サイトからアクセスできます。